

「日本人大学生アスリートにおける新型コロナウイルス感染症罹患前後の心電図変化」 に関する研究のお知らせ

帝京大学スポーツ医科学センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2023年11月13日～2024年3月31日

〔研究課題〕

日本人大学生アスリートにおける Coronavirus Disease 2019 罹患前後の心電図変化

〔研究目的〕

Coronavirus disease 2019(以下、COVID-19)によるパンデミックは、スポーツ界にも大きな影響を及ぼしました。アスリートにおける罹患後の競技復帰においては、復帰前検査が推奨されています。安静時12誘導心電図検査は安価で侵襲がなく、疾患の特徴を反映できることから、まずはRTPスクリーニングとして行い、その結果によって追加検査、すなわち二次検査の必要有無を判断するような使用が有用であると考えられます。その一方で、アスリートにおいては、人種や体格、運動様式の影響を受けさまざまな心電図変化を認めることが知られています。つまり、復帰前検査で何らかの心電図変化が見られた際、その変化がCOVID-19罹患によるものなのか、競技実施による影響なのかを判別するためには、COVID-19罹患前後の所見を比較する事が重要です。本邦において、COVID-19罹患前後のアスリートを対象に心電図変化を比較した報告はありません。今回の研究で、日本人大学生アスリートのCOVID-19罹患前後における心電図所見の変化の実態を明らかにすることを目的としています。

〔研究意義〕

大学生アスリートにおける疾病罹患に伴う心電図変化の実態を捉え、将来的にはCOVID-19だけに限らない、安全な疾病からの復帰を考える一助となると考えています。

〔対象・研究方法〕

2021年5月から2022年8月までにCOVID-19に罹患した、帝京大学強化運動部である駅伝部、空手部、硬式野球部、柔道部、ラグビー部、チアリーディング部に所属する選手を対象とします。年齢、性別、競技特性(競技種目、ポジション、競技歴、訓練時間)に加え、春の健康診断時の安静時12誘導心電図、体組成データとCOVID-19罹患後の復帰前検診時の安静時12誘導心電図、罹患時の重症度、発症日およびRTPスクリーニングまでの日数、罹患時のワクチン接種回数、採血結果などを分析対象とします。

〔研究機関名〕

帝京大学スポーツ医科学センター

〔個人情報の取り扱い〕

研究に利用されるデータは、個人を特定できる情報は含まれません。研究成果は学会や学術雑誌で発表を予定しますが、個人が特定可能な個人情報は利用しません。データは研究責任者のキャビネット内のHDDに施錠して保管されています。データは研究終了後、10年の保管後に帝京大学スポーツ医科学センターにて廃棄します。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者: 武末大藏 職名 帝京大学スポーツ医科学センター・助教
所属: 帝京大学スポーツ医科学センター
住所: 八王子市大塚 359 TEL: 042-690-5588 (代表) [内線 5588]
E-mail: daizo.takesue@gmail.com